

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
 - キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
 - 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- 基礎学力の充実
 - 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
 - ICT活用授業改善推進チームを核に、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用の授業改善と研究を進める。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容のプラス評価を前年度以上とし、令和4年度には75%を目標とする。(H29-67% H30-73% R01-69.9%)
 - ※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価を向上。令和4年度には85%・82%以上を目標とする。
(H29-81.3%・77.3% H30-81.8%・78% R1-82.9%・79.4%)
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を67%以上とし、令和4年度には72%以上を目標とする。
(H29-54.3% H30-65% R01-64.2%)
 - 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。令和2年度は50%を目標とし、令和4年度には55%とする。(H29-42% H30-51.1% R01-47.9%)
 - キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
 - 「総合的な探究の時間」とLHR等を有機的に活用連携させ、3年間を通じた、計画的なキャリア教育、人権教育、道徳教育を実施する。
 - 各学年の計画から3年間を見通した計画への改善に取り組み、令和4年度に完成する。キャリア教育、人権教育、道徳教育を主軸とした学習を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係のプラス評価を前年度以上の数値を目標とする。(H29-87% H30-89% R01-86.8%)
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上とし、令和4年度には80%以上とする。
(H29-74% H30-80% R01-78.3%)
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした「総合的な探究の時間の評価」を70%以上とし、令和4年度には75%を目標とする。
(H29-76.1% H30-78.9% R01-64.2%)
 - 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
 - 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
 - ※ 就職決定状況の高水準維持(令和元年度内定者81名98%)、進学講習、各種検定等学習機会の充実。(H29-97% H30-98% R01-98%)
 - 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
 - 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
 - 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ※ 部活動参加率55%以上への向上。令和4年度には55%以上を目標とする。(H29-51% H30-50% R01-54.2%)
 - 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を令和4年度には85%以上を目標とする。(H29-79% H30-79% R01-80.9%)
 - 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
 - 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」の評価を令和4年度には55%以上を目標とする。
(H29-45.3% H30-47.6% R01-50.9%)
 - 学校運営組織の充実と指導力向上
 - 授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
 - 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目のプラス評価を令和4年度には80%以上とする。(H29-91.3% H30-78.4% R01-79.6%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
本年度の学校教育自己診断の結果について、昨年度よりも向上した項目数は【生徒】23項目中18項目 【保護者】21項目中12項目 【教員】25項目中13項目となっている。本年度は全体的に見ると昨年度よりも高い評価を得ている。その中で肯定率が前年度よりも5%以上減少した項目には、【生徒】なし 【保護者】1項目「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」9.8%減、【教員】7項目 特に20%を超える減となったものとして「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」、「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」、「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝えている」の3項目がある。 【学習指導等】 「先生は自分が努力したことを認めてくれる」(85.8%) 3.0%増、「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」(79.4%) 0.6%増、「先生は、自分が努力	【第1回】R2.5.29(水)平成31年度学校評価及び令和2年度学校経営計画について 学校運営協議会について (1)令和元年度学校経営計画及び学校評価 (2)令和元年度進路状況について (3)(41期生)新入生アンケートについて 学校運営協議会委員より 「新入生アンケート」に関して ・受験理由「入りたい部活動があるから」の項目で、具体的にどの部活動に入りたかったのかを知りたい。 ・学校での目標については、アンケート結果から頻出する言葉、キーワードを取り出して分析し、入学後の目標などの傾向を探ってはどうか。 学校の魅力について

府立西寝屋川高等学校

<p>したことを認めてくれる」(85.8%) 3.0 増と高い評価となっている。</p> <p>「授業は分かりやすく楽しい」7.7%増の70.0%、「授業で、コンピュータやプロジェクターなどを活用している」7.5%増の93.8%となっており、各 HR 教室にプロジェクターが設置された点や、各教員が授業改善に取り組んだ成果が表れている。</p> <p>懸案となっている図書室利用については昨年度よりも2.9%減となり、減少に歯止めがきかない。特に本年度は4月、5月の臨時休業期間があり、新入生に対して十分な図書館オリエンテーションができなかった点や授業での活用が進まなかったことが影響していると思われる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」(86.1%) 0.7%減、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」(87.3%) 3.8%増。進路実現につながる「キャリア教育の充実」については、毎年高い評価を得ている。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>今年度の遅刻数は6月～12月間で1941件、昨年度の同時期よりも1014件減少。(昨年度の6月～12月間の比較では528件減少)。【生徒】「生活規律や学習規律などの生活習慣の確立に力を入れている」(86.9%) 10.4%増、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(84.4%) 3.5%増、「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」(76.8%) 5.5%増、【保護者】「生徒指導の方針に共感できる」(77.8%) 3.0%減。本校の生徒指導方針について、生徒は理解を示していることがわかる。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>【生徒】「学校の図書館を利用したことがある」(45.0%) 2.9%減、「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある」(47.3%) 3.6%減、【保護者】「生徒がよく挨拶をしてくれる」(55.1%) 2.9%減、「子どもは、部活動に熱心に取り組んでいる」(43.6%) 6.4%減、「PTA 活動に参加している」(17.1%) 0.9%減。本校が課題として取り組んでいる部分であるが、改善には至らなかった。特に本年度はコロナ禍のため4月、5月が臨時休業となり、入学当初に行うべき図書館オリエンテーション、部活動体験ができなかった点、学校行事の見直しや校外活動の場が減少したことなど計画を変更したものもあり、改善に至らなかった項目がある。コロナ禍の下、次年度の取組みについては工夫が必要と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（文化祭・体育祭）や部活動について、その内容や成果を学校内外に広めてみてはどうか。 ・部活動の成果などを学校内の生徒でまず共有できているのか？ ・体育祭の応援団活動や文化祭等の学校行事の様子を画像や動画でまとめたものを、学校のHPやYouTubeに発信し、「見える化」をしてはどうか。 ・SNSを活用することも良いが、トラブルの元にもなる可能性があるため注意が必要。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍だからこそできることはないか。 ・自宅での学習時間を増やしたり、スマホやタブレットを利用して様々なことができたりするのではないか。 <p>【第2回】R2.11.18（水）授業見学実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 <p>意見交換・協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べると授業に活気がある。うつ伏せになっている生徒や授業に参加していない生徒への教員の関わりが不十分。 ・3年生の落ち着きに比べると、1年生に落ち着きがないように感じた。 ・プロジェクターの活用により、授業のテンポが良く、資料の東映により興味を引くことができている。 ・机がまっすぐに並んでいない。机を整列させ、雰囲気を作ってはどうか。 ・プリントでの学習が多く、教科書を開く機会がないのはどうなのか。 ・中学校の時に部活動で頑張っていた子が部活動に参加していないのが残念 ・西寝屋川はまだまだよくなる余地がある。意識は元手なしで変えることができる。 <p>【第3回】R3.2.15（月）</p> <p>(1)令和2年度進路状況</p> <p>(2)令和2年度学校教育自己診断</p> <p>(3)令和2年度学校経営計画及び学校評価（案）、令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）</p> <p>意見交換・協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護系に進学を希望する生徒に対して実績を上げている。中学生の中にも看護系への進学を希望する生徒が一定数いるので、看護系への進学実績について情報発信してはどうか。 ・学校教育自己診断、3年生の数値（肯定的評価）が高い結果となっている。良い状況が続くよう、3年生の結果分析・検証を行い、今後にもつながるようにすると良い。 ・地域の連携の継続、授業規律（挨拶など）を通じて、西寝屋川が変わっていくことを期待する。 <p>令和2年度、令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）・・・委員より承認を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を達成した生徒に対して、校長から表彰する場を作るなど、自己肯定感・モチベーションを高める工夫をすると良い。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>ア 公開授業・研究授業・授業アンケートの活用</p> <p>ICT 活用授業の研究</p> <p>学習到達度の低い生徒への学習指導</p> <p>イ 読書の促進</p>	<p>(1)ア・ICT 活用授業改善推進チーム(IJKST)が核となり、本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校全体として授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ（職員研修等、事例発表）。 ・「わかる授業、充実した授業」の授業方略を導入するため、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学で多様な授業スタイルを共有する。(年2回以上実施) ・到達度の低い生徒へのアプローチとして、補習も含めた授業外の学習体制を促進。 ・授業において、教師がタブレットPC等を活用して、生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備を進める。 <p>イ・図書室は学習においても活用し、さらに環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。</p>	<p>(1)ア・各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行う。学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価70%以上。</p> <p>(令和元年度63%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの向上。(令和元年度3.29、3.17) ・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価を65%以上。(令和元年度62.3%) <p>イ・学校教育自己診断における読書状況の図書館利用率52%を目標。(令和元年度47.9%)</p>	<p>(1)ア・学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価は75.5%。コロナ禍に対応するため、各学年・各教科・各分掌の連携が深まり向上した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート項目⑦「授業分析」、⑧・⑨「生徒意識」については、昨年度の第1回、第2回結果よりも向上。「授業分析3.39(84.8%)」、「生徒意識3.26(81.5%)」(◎) ・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価は75.4%。ICT 活用授業改善推進チーム(IJKST)を中心とした授業改善は十分とは言えないが、スマートスクール委員会が中心となり、各教科オンライン授業にむけての取組みを進めることができた。また、各ホームルーム教室にプロジェクターを設置し、授業での活用が高評価につながった。(◎) <p>イ・学校教育自己診断における読書状況の図書館利用率は45.0%。年度当初に図書館オリエンテーションによる読書啓発、授業での図書館活用を計画していたが、コロナ禍による臨時休業のため十分な取組みができなかった。しかしながら利用率は昨年度と同程度の結果であったことから、次年度は図書館オリエンテーション、授業時の活用によって利用率を高めたい。インターネットで手軽に情報等を入手できる環境において、図書館の利用者や読書に興味を持つ生徒をいかにして増やすかが課題。(○)</p>

府立西寝屋川高等学校

<p>2 たくましく生きる力の育成</p>	<p>(1) 3年間の計画的なキャリア教育、人権教育 ア 「総合的な探究の時間」に各教科指導・LHRを連携させたキャリア教育 人権・道徳意識の向上 (2) 進路実現の可能性を拡大 ア 各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現</p>	<p>(1) ア・「HR等計画委員会」が中心となり、「総合的な探究の時間」の活用に向けて、現状分析と課題把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組み、希望進路の実現を図る。 ・外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育また、人権の生徒向け、教職員向けの研修を実施して一層充実させる。 (2) ア・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。 ・進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。 ・進路決定後の進路別の接続を意識した学習の在り方を検討する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間のプラス評価70%(令和元年度64.2%) ・学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上に向上。 (令和元年度86.8%) ・人権・道徳教育の肯定率を前年度以上にする。 (令和元年度78.3%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率75%以上。(令和元年度71.3%) ・就職ゼミによる就職決定者に「社会人講座」等の就職前指導を実施。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間の評価は61.2%。コロナ禍対応のため計画・内容を学期ごとに見直しを行い、実施した。(○) ・学校教育自己診断(生徒)、進路関係のプラス評価は前年度よりも0.7%下がり86.1%となったが、85%を超える高い評価は得ている。次年度は就職オリ・就職ゼミに加え進学指導の充実を計り、キャリア教育を充実させたい。(○) ・人権・道徳教育の肯定率は81.6%。コロナ禍において様々な不安が広がる中ではあったが、他者の存在を意識し、尊重する高校生活を送らせることができている。(◎) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率は76.8%。昨年度より向上。次年度も維持したい。(○) ・コロナ禍のため4月からの就職ゼミの開始が遅れたが、進路決定後の就職前指導までが実施できた。(○)</p>
<p>3 規範意識と社会性を身につけたよき社会の構成員の育成</p>	<p>(1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2) 地域との連携の中で社会性を育成 ア 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める</p>	<p>(1) ア・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取組みを積極的に進める。 ・朝のSHRで遅刻防止、健康把握を行う。 ・交通安全週間の定期的な実施で、交通マナーの徹底を図る。 ・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 ・授業・HRのみならず、学校行事の中でも公民教育(主権者教育)を展開する。 (2) ア・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ア・1年生の部活動加入率が60%以上を目標。 (令和元年度54.2%) ・全体の遅刻回数をのべ3000回以内とする。 (令和元年度3,733回) ・PTAと連携し、年間2回の登校時の交通安全指導を実施。学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価80%以上を維持。 (令和元年度80.9%) ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」に関する前年度肯定率を維持。 (令和元年度76.4%) (2) ア・校区内のあいさつ運動参加(年2回)、近隣小中学校との部活動体験・交流、寝屋川支援学校との交流を通じ、生徒の自尊感情を育成。学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」評価を55%以上とする。 ・地域・保護者に向けた授業公開を年間2回実施し、開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ア・1年生の部活動加入率は35.3%。4月、5月の臨時休業によって、年度当初予定していた部活オリエンテーションや体験入部の機会を十分に設けることができず、加入率は過去最低となった。しかし、部活動においては本年度フォークソング部が「第41回We are Sneaker Ages」において「ベストスマイル校賞」を獲得するなど、文科系・運動系ともに活動を行った。部活動状況を積極的に校内外に発信するとともに、クラブ紹介・体験入部等の方法を工夫し、コロナ禍の影響下であっても新入生の加入率を高め、部活動の活性化を図りたい。 (一) ・遅刻回数のべ3000回以内。令和2年度1月末現在)2,492回4月、5月の遅刻者数のカウントはされていないが、6月以降の比較においては減少傾向にある。(○) ・コロナウイルス感染拡大防止の観点からPTAとの年間2回の登校時の交通安全指導は中止。学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」は84.4%。日常的な呼びかけが効果的であった。(◎) ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」は80.8%。従来のPTAメールに加えて学習支援クラウドサービス活用で肯定率は上昇しているので引き続き活用。(◎) (2) ア・「保護者や地域の人とかかわる機会がある」は47.3%。校区内のあいさつ運動はコロナ禍のため1回のみの実施となったが、近隣小中学校と連携し、活動を行った。近隣小中学校との部活動体験・交流、寝屋川支援学校との交流会については、感染拡大防止のため中止。コロナ禍の影響により、外部との交流行事はほとんど中止となり、他者とのつながりの中で自尊感情を育てる場を設けることができなかつた。 (○) ・地域・保護者に向けた授業公開1回実施。感染症拡大防止の観点から外部への授業公開は1回とした。(○)</p>

府立西寝屋川高等学校

<p>4 学校運営組織の充実と指導力向上</p>	<p>(1) 経験年数の少ない教員の指導力の向上 ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。 職員研修を実施し、学校全体の教育力の向上を図る</p>	<p>(1) ア・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。 ・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。 ・授業改善シートを用いて、各教科で共通理解を図り、Can-do-list に落とし込む。 ・部活動基本方針に則り、ノークラブデー等の徹底</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価を維持する。(令和元年度 79.6%) ・学校教育自己診断、相談に関する評価を前年度以上にする。(令和元年度 67%) ・職員研修を計画的に年4回以上実施。(防災・人権・授業改善等) ・各教科 Can-do-list を更新し、教科横断的な授業への取組みができる体制を構築。 ・授業改善シートの提出。 ・時間外勤務の削減。 ・各部活動、ノークラブデー実施による時間外勤務削減。</p>	<p>・学校教育自己診断による「研修成果の共有」は52.0%。校内の初任者育成研修「スタスタ研」は予定どおりではあったが、授業研究は例年よりも回数が減ってしまった。外部の研修についても研修自体がなくなったものがあり、研修成果を十分共有できなかった。次年度はコロナ禍の影響も考慮し、授業研究、生徒支援等の研修機会の充実を行う。(△) ・学校教育自己診断、相談に関する評価は71.3%。感染症に対する不安や学校生活等の不安について、日常的に呼びかけを行い、生徒が相談しやすい雰囲気を作ることができた。(◎) ・本年度はコロナ禍の影響もあり、外部講師を招聘しての研修は難しく、防災・人権研修各1回となったが、研修内容は充実したものであった。次年度は回数・内容ともに充実させたい。(○) ・各教科オンライン授業に向けての取組みはできたが、Can-do-list の更新、教科横断的な取組みの場は持てなかった。(△) ・個人の授業改善シートから教科目標シート(観点別学習にむけての取組み)作成へ移行し、次年度に向けての準備とした。(○) ・時間外勤務の削減 ・各部活動、ノークラブデー実施による時間外勤務削減は継続して取り組み、教職員の意識を高めたい。前年度よりも時間外勤務総数10%削減達成。(○)</p>
------------------------------	--	---	---	---